

デンマークでの交換留学体験談

3年 友野 胡春

こんにちは。私は2021年8月から11か月間、デンマークの高校へ留学をしました。帰国して、今は3学年に在籍して、大学受験の準備をしています。デンマークでは、たくさんのことを体験し、たくさん悩み、乗り越え、学び、そして吸収してきました。デンマークや海外留学のことを在校生や皆さんと共有出来たら嬉しいです。

◆デンマークについて



デンマークは北欧諸国の一つで、大きさは九州ほど、人口680万人という小さな国です。言語はデンマーク語ですがほとんどの人が英語も話します。国民幸福度や住みやすい都市、貧困率の低さでは世界ランキングでも毎年一位から三位に入っています。このような背景には高い税金によってできる福祉サービスの充実があります。



初のオリエンテーションで行ったコペンハーゲン



(最

オリエンテーションで仲良くなった留学生と)

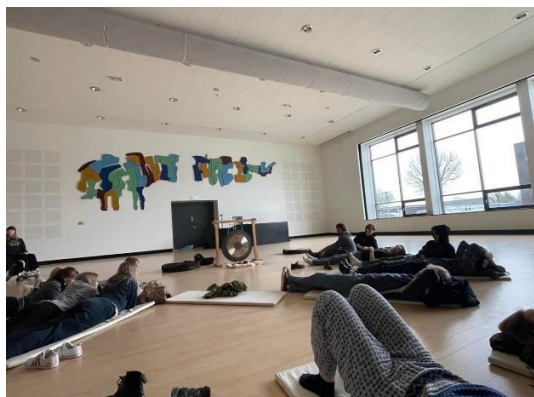
◆学校の様子

日本の学校との大きな違いを5つ紹介します。

<1. 日本のようなルールがない>

これがルールだよ、と教わることはなかったので大体何をしても許されました。日本で今まで禁止されてきたルールや校則（髪を染める、ネイル、アクセサリ、メイクアップに関

することなど)は一切なく、みんなこれでもか、というような大量のアクセサリーを付けてきました。驚いたのは、耳のピアスはもちろんのこと、鼻ピアスを大体の人が身に付けていたこと。タトゥーもクラスメイトのほとんどが入っていたので、文化の違いを感じました。



(宗教の授業。先生の鐘の演奏でお昼寝をしているところ)



(数学の授業。晴れているときは外で勉強しました。)

< 2. 自分の心地よさが一番大切 >

授業での席は自分たちで毎日気分によって選べます。椅子ではなく机に座って授業を聞くこともできたので、自分のペースで気分転換できてよかったです。授業中にご飯やスナックをたべてもいいし、トイレに行きたくなったり、水が欲しくなったら何も言わずに外に出ていけました。

授業の多くはグループでの作業になるのですが、その時はみんな教室を出て、グループごと急いで一番気持ちのいいソファを狙いに行きます。そして寝ながら作業を行ってもいいので、休憩時間はほとんどの人が机に座って椅子に足を乗けておしゃべりを乐しみます。足を机に乗けることや、場所を移動するときに机上を歩くこともあったので、日本ではお行儀が悪いとされていたことが、向こうでは当たり前になって自分が心地いいと思うことが優先されていました。一人で作業を行う授業の時は、音楽を聴きながら作業に取り組む人が多かったです。



(留学生のためのデンマーク語のクラスで雪遊び)



(学校の創立記念日にヒッピーの格好でお祝いました)

< 3. 先生と生徒が対等 >

私たちは先生のことを友達の呼び方と同じ下の名前で呼んでいいことになっていました。敬語は基本的に使わないそうで、先生との距離を近く感じました。唯一敬語を使うとしたらロイヤルファミリーと話す時だと友達が言っていました。先生側も私たち生徒をいつでも個人として、一人の人として同じ立場に立ってくれたのがとても心地が良かったです。先生は気さくな方が多く、廊下であつたら必ず笑顔で Hej Coco!! Hvordan gor det? (こんにちは、coco,調子はどう?) 困っていることを相談できて、いつも気にかけてくれました。仲のいい先生は会うと大きなハグをくれました。先生自身も自由なので、歩いているときは口笛を吹く先生や、映画のラブシーンで生徒よりも盛り上がる先生、いつも授業の初めにその日に着ている T シャツの解説から入る先生など、先生たちもたちが自由に居られる環境を作ってくれていると感じました。先生たちの帰る時間も早いので、先生と生徒が一緒の時間に帰ることもよくあります。14:00 か 15:00 にはほとんどの先生が帰っていたと思います。



(一番相談に乗ってくれた先生 Marita)



(国際デーを祝うため曲を演奏しました、私はヴァイオリンで参加しました)

< 4. 放課後はリラックスする >

デンマークの高校生で卒業後すぐに大学に進学するのは珍しく、ギャップイヤーをとり2~3年はアルバイトや旅をしてやりたいことを見つけるのが一般的です。そのため放課後はアルバイトをしてお金をためたり、友達や家族と過ごす時間を大切にしていました。



(放課後や休日にイタリアの留学生とよく遊びました。)(放課後は友達の家でとにかくおしゃべりを楽しみました。)

<5. 完璧じゃなくていい>

完璧な人はなかなかいないと思いますが、私は日本にいたときに、楽器を弾くときも「上手くなきゃ人前で弾きたくない」、学校で発言するときも「間違えたくない」と思っていたが、デンマークの学校では、たくさん手を挙げてたくさん間違えるし、うまくなくても楽器に挑戦しやすい環境がありました。うまくやるというよりかは、いかに楽しむかが大切にされていました。



(デンマーク人は背が高くクラスの男子は185cmでも小さい方で、女子も175cmくらいありました。)





(私の最後のプレゼンテーションを聞いているクラスメイト)

◆ホストファミリーについて

私はホストファミリーを2回変えて、3つの家族を体験しました。私はこの体験がよかったと前向きにとらえています。なぜなら、3つともデンマークの家族ですが、すべての家族が同じではなかったからです。当たり前のことですが、いろんな家族の在り方やカタチを知ることが出来ました。

私は最初のファミリーに居心地の悪さを感じていました。しかし、「家族という場所は心地よくて、帰りたいて思える場所であるべきだよ」とクラスの友達からの助言があったことや、友達の家族もたくさん助けてくれて、一か月間かけて団体と交渉をし、何とかホストファミリーを変えることが出来ました。ところが、次のファミリーは、家族がほとんど家に居ませんでした。私は家で一人で過ごすことが多く、「もっとデンマークの文化に触れなきゃもったいない」と思い、ホストマザーに自分のその気持ちを伝えて話し合い、最終的にもう一度ホストファミリーを変えることになりました。最後のファミリーはとても居心地が良くて、たくさんいろんなことを一緒にして、すごく HYGGE (デンマーク語で暖かく心地のいい空間) な思い出だらけです。特に私のお気に入りの時間は、マザーとご飯を作ったり、キッチンでひたすら話したり、ご飯中も家族と話し続けたり、シスターと Netflix を見るときでした。

最初の2つのファミリーとはあまりうまくいきませんでした。それでも成長したことはたくさんあると思います。交渉力がついたり、自分のその時の気持ちや、今後自分はどのようにしたいかということ素直に伝えられるようになりました。



(みんなお寿司が大好きなので寿司パーティを開きました。三番目の家族全員好きですが、ホストシスターとは本当の姉妹のようになれました。)



(パーティの前日に晴れを願っててる坊主をみんなで作りました。夏の中で一番素敵な天気になりました。)



(マザーとシスターと家の近くの森を散歩しました)

◆これから留学をする人、またはしたい人へ

留学と聞いて皆さんは何を想像しますか？

私は行く前は、ホストファミリーとほんとの家族のようになって、学校の友達とも親友になって、デンマーク語もペラペラに話せるようになって・・・、とそんなことを想像していました。

でも、留学に行く前のオリエンテーションでは、「8：2=大変なこと：楽しいこと」と教

わかりました。行く前は信じられませんでした。が、実際留学を終えてみると、確かにそのくらいの割合だったと感じます。海外留学では、いままで経験しなかったような、大変なことや解決の仕方が分からなような問題にも直面することがあると思います。でも、私は高校生でこのようなことが体験出来て、とてもよかったと思うし、今までよりも自分らしく、自分のしたいことは何か、自分の気持ちを大切にすることができるようになってとても成長したと思います。そして、自分のやりたいという気持ちは押さえてしまわずに、周りの目を気にせず、デンマークでよく友達が言ってくれた言葉 You can do something that you want to. を大切にしたら、すごく生きやすくなりました。たくさん悩みまくりましたが、毎回それを乗り越えることができたことは、今の自信にもつながっているし、これから問題に直面しても乗り越えることができる自信があります。いま高校生としての留学に悩んでいる人にはぜひ挑戦していただきたいです。



(おばあちゃんとおじいちゃんの家によく行きました。)



(自分の子供のように接してくれた友達のマザーとお別れは大号泣でした。)